

ピーマン炭疽病に対する数種薬剤の防除効果

福島県農業総合センター 生産環境部
企画経営部

1 部門名

野菜 - その他ナス類 - 病害虫防除

2 担当者

堀越紀夫・鈴木洋平・緑川弥寿彦

3 要旨

県内の露地栽培ピーマン産地において炭疽病の発生が、収穫量を減少させる要因となっている。本試験では、数種の殺菌剤を供試し、ピーマン炭疽病に対する防除効果を検討した。

- (1) 数種の殺菌剤を検討したところ、TPN、クレスキシムメチル、アゾキシストロビン・TPN、アゾキシストロビン、ボスカリドが有効成分として含まれる殺菌剤で効果が認められた。
- (2) その内、TPN水和剤(ダコニール1000)とアゾキシストロビン・TPN水和剤(アミスター・オプティフロ・アブル)については、適用拡大申請が行われ、2009年、適用病害虫名にピーマン炭疽病が追加された。
- (3) 適用拡大された両薬剤は、いずれも薬害が認められなかった。ただし、TPN水和剤(ダコニール1000)では果実の汚れ防止のため、展着剤の加用が必要である。

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成20～21年度農業総合センター試験成績概要(2008～2009)